

## 外航コンテナの国内フィーダ輸送実績（26年度報告）

平成26年度における外航二次コンテナ輸送量の実態調査結果は以下の通りである。

### 1. 調査対象会社

内航海運事業者、旅客フェリー（長距離フェリー）事業者の内、前回の調査対象会社で輸送実績のあった事業者を中心に、13社に対して調査を実施した。

#### (1) フィーダ・コンテナ輸送事業者

調査を依頼した13社（25年度13社）すべての事業者から有効回答を得られた。

#### (2) 使用船腹

使用船腹は、一般貨物船18隻（25年度17隻）、コンテナ専用船22隻（25年度19隻）、RORO船3隻（25年度5隻）、フェリー8隻（25年度7隻）、その他4隻（25年度3隻）であり、合計55隻（25年度51隻）となった。

<参考>年度別使用船腹量(平成22～26年度) (単位:隻)

	H22	H23	H24	H25	H26
一般貨物船	6	20	22	17	18
コンテナ専用船	32	21	19	19	22
RORO船	3	4	5	5	3
フェリー	9	5	7	7	8
その他	4	4	4	3	4
合計	54	54	57	51	55

### 2. 調査結果

調査結果について下記に要約する。なお、詳細を6～19頁に示す。

#### (1) 輸送実績

実入コンテナ	425,501 TEU	25年度(399,183TEU)対比	約 6.59% 増
		24年度(384,457TEU)対比	約 10.67% 増
空コンテナ	273,704 TEU	25年度(245,019TEU)対比	約 11.70% 増
		24年度(226,798TEU)対比	約 20.68% 増
総計	699,205 TEU	25年度(644,202TEU)対比	約 8.53% 増
		24年度(611,255TTEU)対比	約 14.38% 増

〈参考〉年度別輸送量(平成 21～26 年度)

(単位:TEU)

	実入コンテナ	空コンテナ	合計
平成 21 年度	350,524	220,364	570,888
平成 22 年度	383,011	236,021	619,032
平成 23 年度	353,955	227,522	581,477
平成 24 年度	384,457	226,798	611,255
平成 25 年度	399,183	245,019	644,202
平成 26 年度	425,501	273,704	699,205

## (2) 積地・揚地別輸送量

### 1) 積地別輸送量

平成 26 年度における積地別の輸送量は、関西(実入 95 千 TEU、空 148 千 TEU、計 243 千 TEU、34.8%)、関東(実入 68 千 TEU、空 50 千 TEU、計 118 千 TEU、16.9%)、中国(実入 97 千 TEU、空 15 千 TEU、計 112 千 TEU、16.1%)、中部(実入 52 千 TEU、空 6 千 TEU、計 57 千 TEU、8.3%)、四国(実入 38 千 TEU、空 16 千 TEU、計 53 千 TEU、7.7%)、九州(実入 31 千 TEU、空 19 千 TEU、計 49 千 TEU、7.1%)、東北(実入 37 千 TEU、空 11 千 TEU、計 47 千 TEU、6.8%)、北海道(実入 7 千 TEU、空 10 千 TEU、計 16 千 TEU、2.3%)の順であった。関西と関東における実入の積みはほぼ全量が輸入貨であり、中部は輸出貨と輸入貨が混在している。一方、四国、九州、東北、北海道の実入積みはすべて輸出貨である。

前年度を 100%とした対前年比較では、増加したのは中国(135.8%)、関西(114.2%)、四国(107.4%)、中部(101.0%)で、減少したのは東北(89, 4%)、北海道(91.7%)、九州(97.7%)。関東(99, 3%)であった。

注目すべき点として、関西、関東、中国が積高で 100 千 TEU を越え、これら 3 地域で積高全体の 3 分の 2 を占める。中でも関西(244 千 TEU)の突出傾向が強まり、総量で関東(118 千 TEU)の 2 倍と突出している。伸び率では中国(112 千 TEU)が前年度比 36%の大幅増(実入 33%増、空 61%増)で、昨年度の増加率(15%増)を大きく上回り、積高でも関東に並だ。中国の実入積みはほぼ全量が関西揚(接続)の輸出貨である。

上記 3 地域以外では、中部(58 千 TEU)は前年度比 1%増。四国(54 千 TEU)は前年度に 12%減少したが、今回は 7%増。逆に九州(50 千 TEU)は前年度に 23%増増加したが、今年度は一転して 2%減少(実入 2%減、空 1%減)。東北(48 千 TEU)は 11%減(実入 1%減、空 23%減)。北海道(16 千 TEU)は 8%減(実入 8%減、空 9%減)。

最近 5 年間（平成 22～26 年度）の実入の趨勢では、関西、中国、四国で平成 26 年度が過去最高の積高となった。一方、九州、東北、北海道は平成 22 年度が過去最高で、23 年度以降はこれを下回り続けている。

## 2) 揚地別輸送量

揚地別の輸送量は、関西（実入 177 千 TEU、空 43 千 TEU、計 219 千 TEU、31.4%）、中国（実入 38 千 TEU、空 92 千 TEU、計 129 千 TEU、18.5%）、関東（実入 98 千 TEU、空 21 千 TEU、計 118 千 TEU、16.9%）、中部（実入 52 千 TEU、空 6 千 TEU、計 64 千 TEU、9.3%）、東北（実入 32 千 TEU、空 23 千 TEU、計 54 千 TEU、7.9%）、四国（実入 18 千 TEU、空 30 千 TEU、計 48 千 TEU、7.0%）、九州（実入 24 千 TEU、空 23 千 TEU、計 47 千 TEU、6.7%）、北海道（実入 7 千 TEU、空 10 千 TEU、計 16 千 TEU、2.4%）、沖縄（実入のみ 0.1 千 TEU、0.02%）の順となった。関西と関東における実入の揚げは、関東はほぼ全量が輸出であり、関西に関しては大半が輸出であるが、輸入貨も含んでいる。中部は輸出と輸入貨が混在している。一方、四国、九州、東北、北海道の実入揚げはすべて輸入貨である。

前年度を 100%とした対前年度比較では、増加したのは中国（137.6%）、関西（116.0%）、四国（106.0%）、東北（104.6%）で、減少したのは沖縄（79.6%）、九州（90.4%）、中部（91.5%）、関東（96.4%）、北海道（98.0%）であった。

注目すべき点としては「積地状況」と同様であるが、関西、関東、中国で 100 千 TEU を超え、これら 3 地域で揚高全体の 3 分の 2 を占める。時に関西（220 千 TEU）の突出傾向が強まり、関東（118 千 TEU）の 2 倍。伸び率では中国（129 千 TEU）が前年度比 38%の大幅増（実入 34%増、空 39%増加）で、昨年度の増加率 24%を上回る。中国の実入揚げはほぼ全量が関西接続の輸入貨であるが、旺盛な輸出に対応するためには輸入コンテナの利用だけでは足りずに、大量の空コンテナを持ち込んでおり、実入・空の合計で関東を越えた。

上記 3 地域以外では、中部（58 千 TEU）は前年度比 10%減。四国（49 千 TEU）は前年度に 8%減少したが、今回は 6%増。九州（47 千 TEU）は昨年度に 17%増加したが、今年度は 10%減少（実入 2%減、空 1%減）。東北（55 千 TEU）5%増（実入 6%増、空 3%減）。北海道（16 千 TEU）2%減（実入 1%減、空 31%増）。最近 5 年間（平成 22～26 年度）の実入の趨勢では、関西と中国で平成 26 年度が過去最高の積高となった。一方、関東と四国は平成 22 年度が過去最高で、23 年度以降はこれを下回り続けている。

## (3) 地域間流動

平成 26 年度における地域間の流動量は、関西／中国間、関東／東北、関西／四国の間で多く、概ね過去と同様の傾向にあるが、前年度実績との比較から、関西を結ぶ

地域間は増加傾向であり、関西／中国、四国の間及び関東／東北、中部の間では増加しているが、関西／中部、九州、関東／九州間では減少した。

① 実入、空コンテナ別の地域間流動

実入コンテナの積量は、中国、関西、関東、中部の順で多く、空コンテナの積量は、関西、関東、九州、四国が多い。

実入コンテナの揚量は、関西、関東、中国、東北の順で多く、空コンテナの揚量は、中国、関西、中部、四国の順が多い。

② 20、40 フィート (ft) 別の地域間流動

20ft コンテナの積量は、関西、中国、四国、関東の順で多く、40ft コンテナの積量は、関西、関東、中国、中部の順が多い。

20ft コンテナの揚量は、関西、中国、四国、関東の順で多く、40ft コンテナの揚量は、関西、中国、関東、中部の順が多い。

### 3. 補足

#### (1) 内航フィーダーの増減要因

今年度のフィーダーコンテナの輸送実績は実入・空とも順調に増加したが、フィーダーコンテナの増減は輸出入の荷動きのみならず、アライアンスの変更、ポート・ローテーションの変更、荷主との契約、為替の変動、アライアンスの枠を越えた船社間の個別スペースチャーターなど様々な要因によって左右される。また空コンテナは、輸入コンテナの返却以外に、外国フィーダーを利用して韓国(釜山)などへ持ち込み、彼の地からの輸出に使用されているものもある。

#### (2) 関東(京浜港)におけるフィーダーコンテナの減少

数年来、京浜港での実績が落ちている要因の一つと考えられるのが、当該港でバースウィンドウの確保が容易でなく、待機を余儀なくされることが多いことである。国際コンテナ戦略港湾に貢献する内航フィーダー輸送の効率化を考えるものであれば、バース待ち等の問題解消が必要ではないかと考えられる。

#### (3) 九州の状況

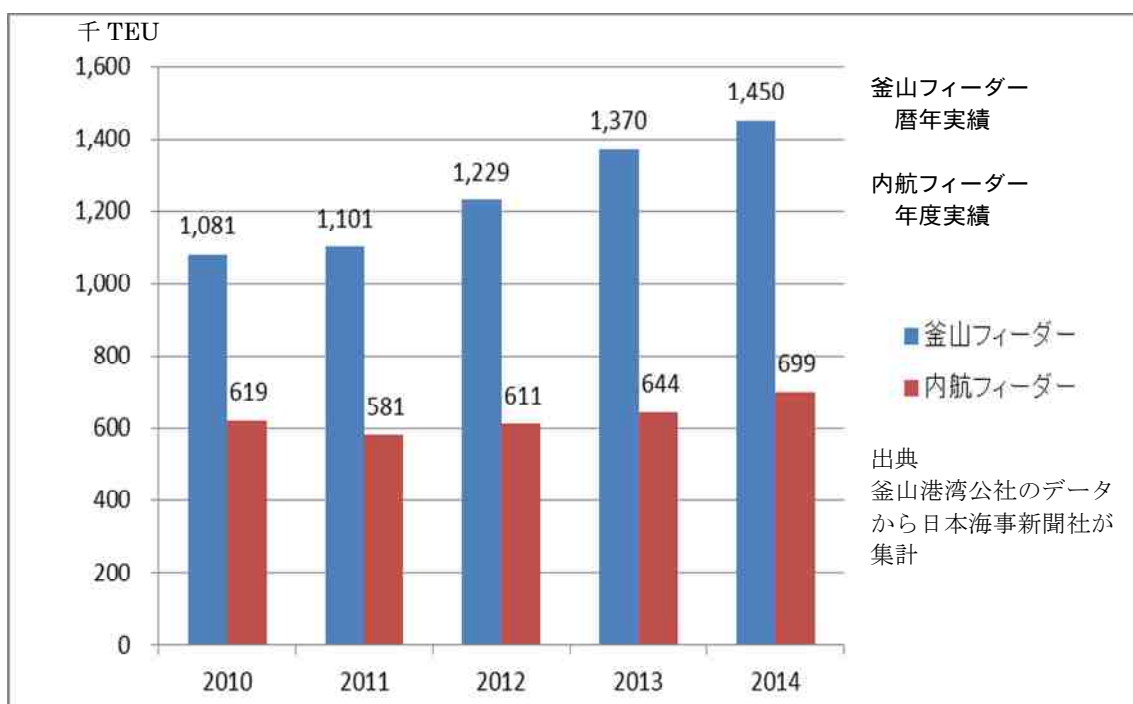
昨年度の報告書では「西日本を中心に国内フィーダー・コンテナの数量が増加したのは、九州・瀬戸内の自動車関連を中心に全体として輸出が拡大する中で、国内(主に阪神)接続貨も増加したためと考えられる」と記述したところであるが、今回、九州は減少に転じた。

九州の平成26年の輸出額は前年比2.7%増(経済産業省九州経済産業局のデータ)であったものの、米国向けは自動車等を中心に前年比11.4%減となっており、それが

フィーダーコンテナの輸送量に影響したことも考えられる。しかしながら、最大かつ構造的な原因は韓国フィーダーへの流出とみられる。因みに九州は平成 22～26 年度において、実入の積高が最も多かったのは平成 22 度（35 千 TEU）で、それ以降は 25 年度を除いて、いずれも前年度を下回っている。

#### (4) 韓国フィーダーの状況

2010～2014 年の内航フィーダーと日本～釜山フィーダー（以下「日韓フィーダー」という）の輸送量は下のグラフの通りである（内航フィーダーは年度実績、日韓フィーダーは暦年実績）。2010 年は内航フィーダー 619 千 TEU、日韓フィーダー 1,081 千 TEU で、日韓フィーダーは内航フィーダーの 1.7 倍であったものが 2014 年には 2.1 倍になっており、両者の差は拡大している。

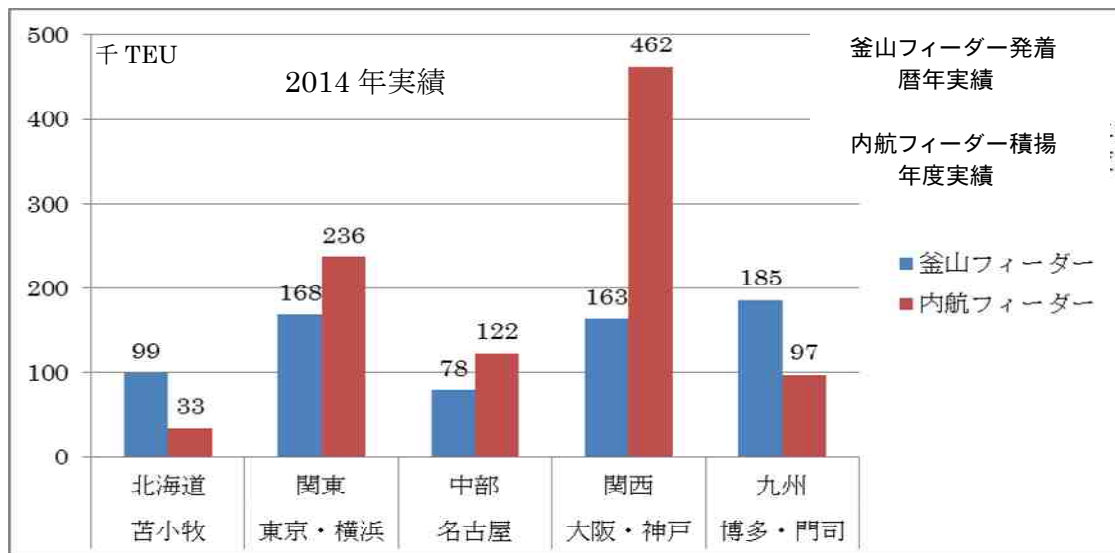


また、釜山港における日本発着のトランシップ・コンテナを日本の発着港別に示したのが次ページの表である。日本の地方港だけでなく、阪神や京浜のハブ港湾発着のコンテナも多数が日韓フィーダーにより釜山でトランシップされており、国際コンテナ戦略港湾政策を足元から揺るがしかねない状況である。

千 TEU

	2010	2011	2012	2013	2014
大阪	53	63	77	79	86
博多	121	119	129	124	140
東京	41	47	55	71	68
横浜	71	69	68	77	100
苫小牧	91	96	89	98	99
名古屋	51	46	52	74	78
神戸	44	49	62	72	77
新潟	49	62	65	70	67
門司	53	44	50	48	45
清水		23	29		
広島			36	44	46
その他	507	485	522	613	643
合計	1,081	1,104	1,234	1,371	1,450

釜山港湾公社のデータを日本海事新聞が集計  
清水と広島は年によって公表されていない



釜山港湾公社のデータを日本海事新聞が集計  
下段地名は日韓フィーダーの日本における発着港

前掲表に基づいて、2014年の日韓フィーダーの日本発着港別の輸送量を内航フィーダーと比較したのが前ページのグラフである。韓国に近い博多・門司だけでなく、苫小牧発着の日韓フィーダーも北海道積揚の内航フィーダーを大幅に上回っている。京浜、阪神のハブ港から遠い地域で日韓フィーダーへの流出が起きていることが分かる。

平成26年度内航船による外航コンテナフィーダー輸送量実績調査

[会社名及び使用船舶一覧表]

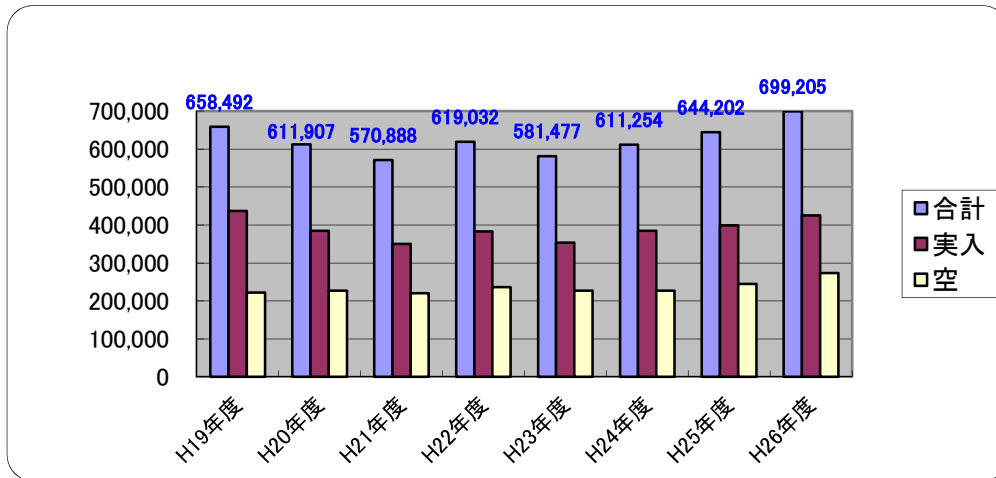
会社名	使用船舶		
	船種	船型(G/T)	隻数
南日本汽船(株)	一般貨物船	499	3
	一般貨物船	637	1
	一般貨物船	749	1
マツダロジスティクス(株)	一般貨物船	498	(1)
	コンテナ専用船	749	(1)
	コンテナ専用船	498	(1)
日本通運(株)	その他	7,323	2
	RORO船	10,470	1
	RORO船	10,471	1
	RORO船	10,497	1
鈴与海運(株)	一般貨物船	498	1
	一般貨物船	499	6
	コンテナ専用船	749	1
井本商運(株)	一般貨物船	498	3
	一般貨物船	499	2
	コンテナ専用船	498	1
	コンテナ専用船	499	5
	コンテナ専用船	748	1
	コンテナ専用船	749	9
	コンテナ専用船	2,446	1
	その他	3,240	1
西日本内航フィーダー(合)	一般貨物船	499	1
	コンテナ専用船	3,129	1
	コンテナ専用船	3,264	1
ナラサキスタックス(株)	コンテナ専用船	2,446	(1)
近海郵船(株)	コンテナ専用船	749	1
横浜コンテナライン(株)	コンテナ専用船	749	1
(株)ユニエックス	その他	548	1
阪九フェリー(株)	フェリー	13,353	2
	フェリー	15,118	2
	フェリー	15,897	1
四国開発フェリー(株)	コンテナ専用船	499	(1)
	フェリー	9,917	1
	フェリー	9,975	1
	フェリー	15,732	1
大王海運(株)	—	—	—
	一般貨物船		18
	コンテナ専用船		22
	RORO船		3
	その他		4
	フェリー		8
	合計		55

※ 隻数に表示の( )に関しては、共同運航使用等のため、合計隻数には含めず。

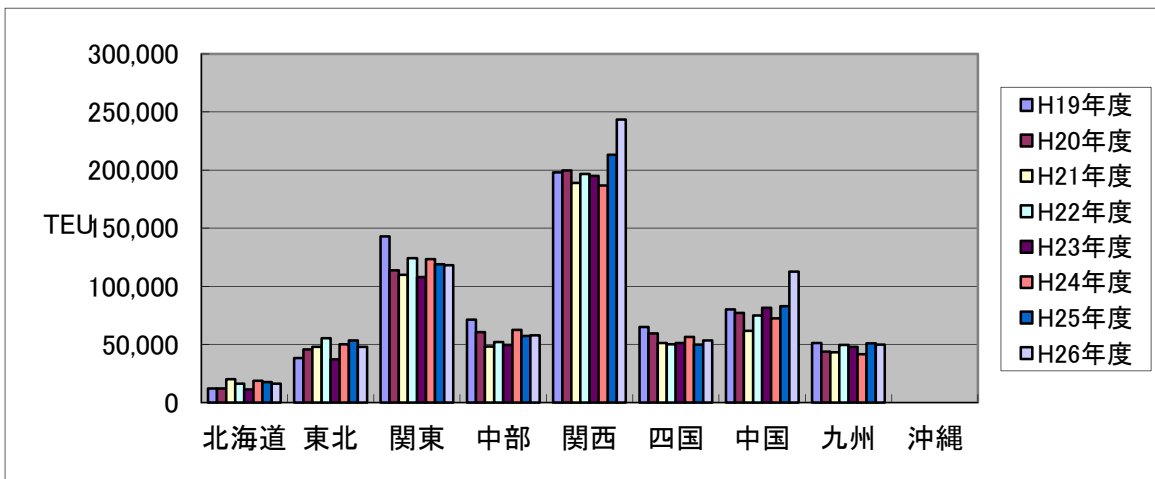
※ 大王海運(株)の平成26年度のコンテナ輸送実績は無しであった。



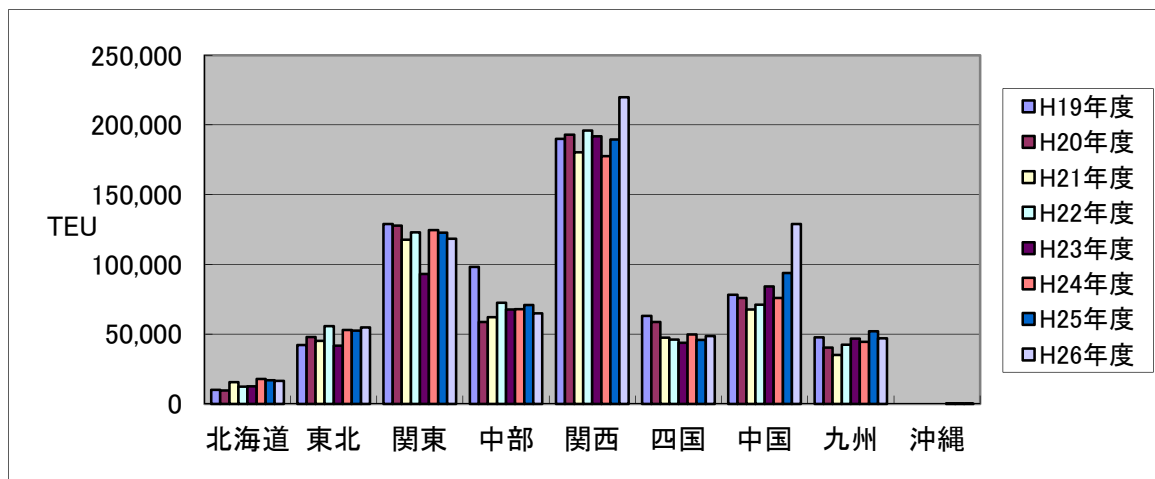
### 内航船による外航コンテナフィーダ輸送量比較(実績ベース)



### 積地による年度増減推移

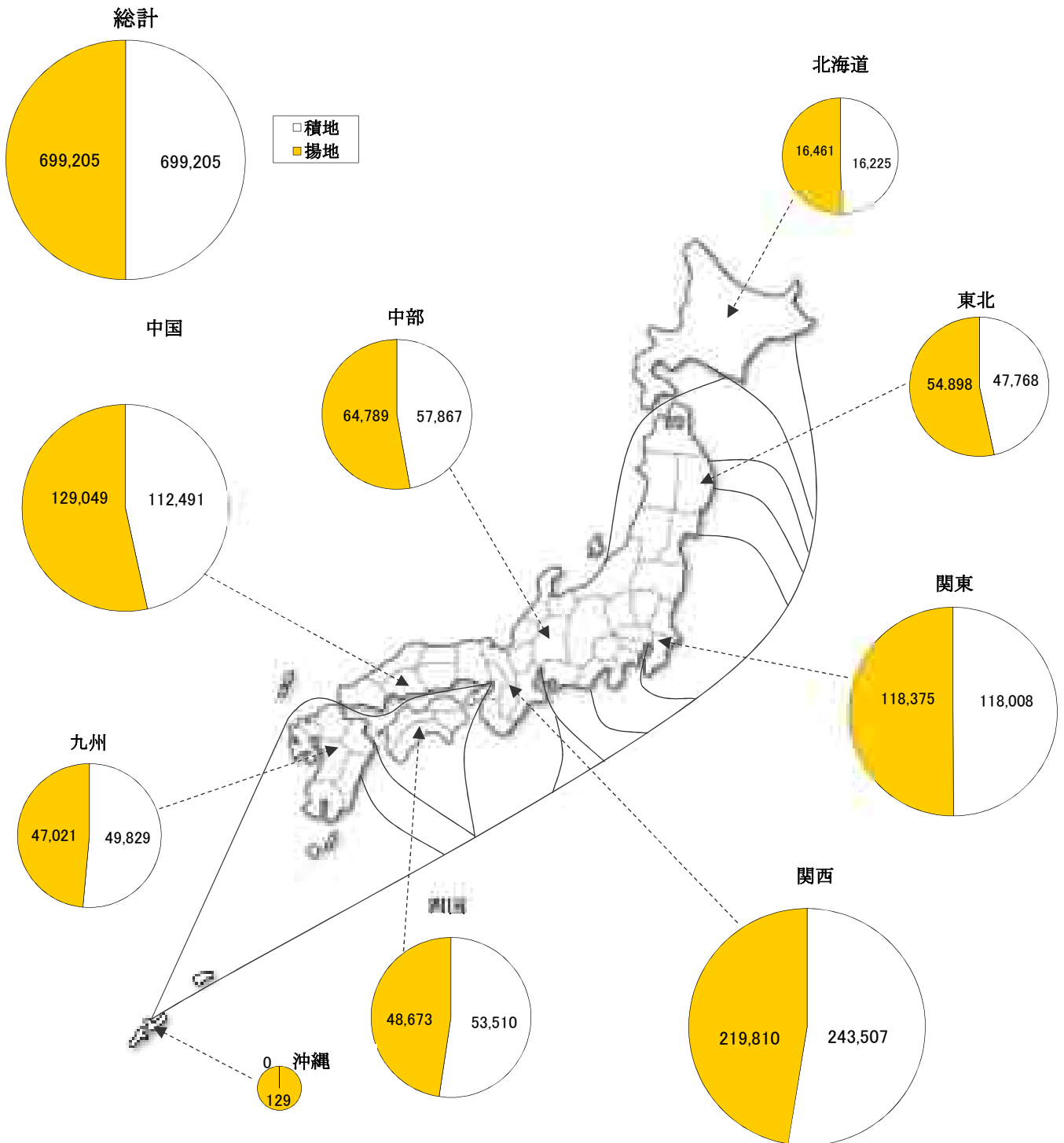


### 揚地による年度増減推移



# 内航フィーダー網及び輸送量

(内航船による外航コンテナ二次輸送量 平成26年度実績)



注1. 国内の二次コンテナ輸送のための積・揚総量(through put)は、1,398,410TEUとなる。

注2. 輸送実績は内航船及びフェリー船によるもので、特許により外航船による輸送量は含まれていない。

内航船による外航コンテナフィーダ輸送量 平成26年度実績

[積地別]

積地	実入コンテナ			空コンテナ			合計			%
	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	
北海道	343	3,179	6,701	2,100	3,712	9,524	2,443	6,891	16,225	2.32%
東北	5,564	15,813	37,190	1,568	4,505	10,578	7,132	20,318	47,768	6.83%
関東	9,573	29,323	68,219	7,779	21,005	49,789	17,352	50,328	118,008	16.88%
中部	7,574	22,361	52,296	1,221	2,175	5,571	8,795	24,536	57,867	8.28%
関西	19,442	37,903	95,248	34,479	56,890	148,259	53,921	94,793	243,507	34.83%
四国	15,530	11,124	37,778	3,636	6,048	15,732	19,166	17,172	53,510	7.65%
中国	18,007	39,548	97,103	3,100	6,144	15,388	21,107	45,692	112,491	16.09%
九州	7,566	11,700	30,966	7,161	5,851	18,863	14,727	17,551	49,829	7.13%
沖縄	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%

総計	83,599	170,951	425,501	61,044	106,330	273,704	144,643	277,281	699,205	100%
----	--------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	------

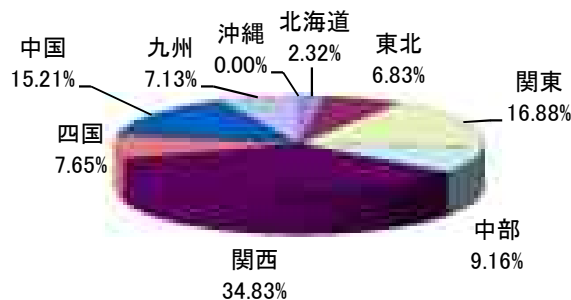
[地域別]

- 北海道：北海道
- 東北：青森、岩手、宮城、福島
- 関東：東京、神奈川、茨城、千葉
- 中部：静岡、愛知、三重
- 関西：大阪、兵庫、和歌山
- 四国：香川、愛媛、徳島
- 中国：広島、岡山、山口
- 九州：福岡、大分、宮崎、鹿児島  
熊本、長崎

[積地港別]

- 北海道：苫小牧
- 東北：仙台、小名浜、八戸、釜石、宮古
- 関東：東京、横浜、川崎、常陸那珂、鹿島、千葉
- 中部：名古屋、清水、御前崎、豊橋、四日市
- 関西：神戸、大阪、姫路、泉大津、和歌山、
- 四国：今治、松山、新居浜、徳島、伊予三島、  
東予、高松
- 中国：水島、徳山、広島、岩国、防府、宇部、玉島、  
大竹、福山、三田尻中関
- 九州：博多、大分、志布志、ひびき、門司、細島、  
新門司、油津、八代、長崎、播磨川内

積地別取扱量



内航船による外航コンテナフィーダ輸送量 平成26年度実績

[揚地別]

揚地	実入コンテナ			空コンテナ			合計			%
	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	20'	40'	TEU	
北海道	2,640	5,788	14,216	283	981	2,245	2,923	6,769	16,461	2.35%
東北	4,163	13,958	32,079	3,713	9,553	22,819	7,876	23,511	54,898	7.85%
関東	14,985	41,259	97,503	4,078	8,397	20,872	19,063	49,656	118,375	16.93%
中部	3,458	10,874	25,206	3,717	17,933	39,583	7,175	28,807	64,789	9.27%
関西	41,045	67,891	176,827	11,543	15,720	42,983	52,588	83,611	219,810	31.44%
四国	4,160	7,061	18,282	15,859	7,266	30,391	20,019	14,327	48,673	6.96%
中国	5,768	15,867	37,502	17,681	36,933	91,547	23,449	52,800	129,049	18.46%
九州	7,285	8,236	23,757	4,170	9,547	23,264	11,455	17,783	47,021	6.72%
沖縄	95	17	129	0	0	0	95	17	129	0.02%

総計	83,599	170,951	425,501	61,044	106,330	273,704	144,643	277,281	699,205	100%
----	--------	---------	---------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	------

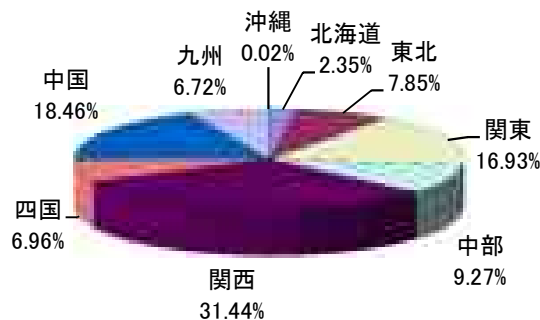
[地域別]

- 北海道：北海道
- 東北：青森、宮城、福島、岩手
- 関東：東京、神奈川、茨城、千葉
- 中部：静岡、愛知、三重
- 関西：大阪、兵庫、和歌山
- 四国：香川、愛媛、徳島
- 中国：広島、岡山、山口
- 九州：福岡、大分、宮崎、鹿児島  
熊本、長崎
- 沖縄：沖縄

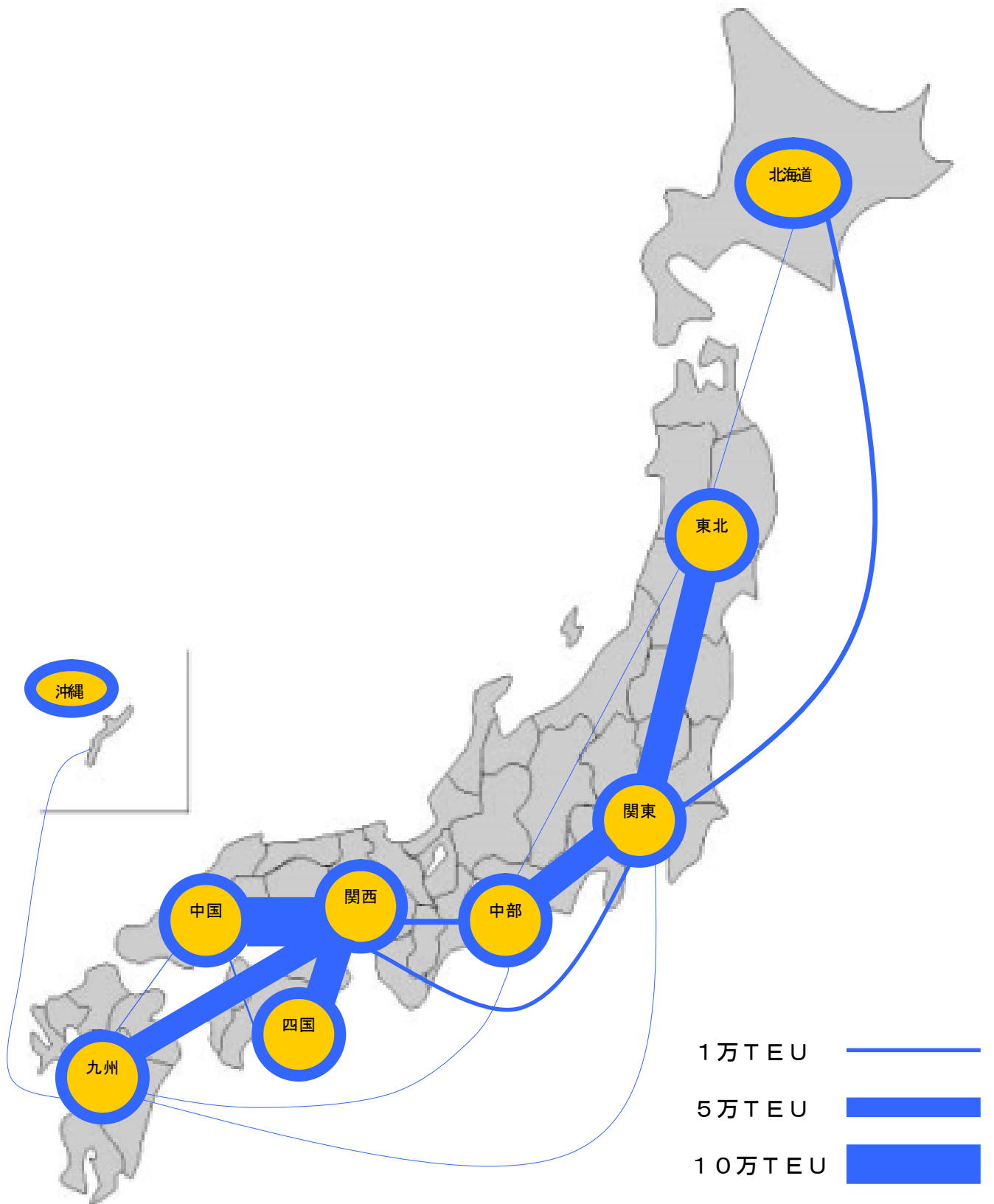
[揚地港別]

- 北海道：苫小牧
- 東北：仙台、小名浜、八戸、釜石、宮古
- 関東：東京、横浜、川崎、常陸那珂、鹿島
- 中部：名古屋、清水、御前崎、豊橋、四日市
- 関西：神戸、大阪、姫路、泉大津、和歌山
- 四国：今治、松山、新居浜、徳島、伊予三島、高松、東予
- 中国：水島、徳山、広島、岩国、防府、宇部、玉島、大竹、福山、三田尻中関
- 九州：博多、大分、志布志、ひびき、門司、細島、新門司、八代、油津、長崎、播磨川内
- 沖縄：那覇

揚地別取扱量



## 内航フィーダコンテナの主な地域間流動（平成26年度）

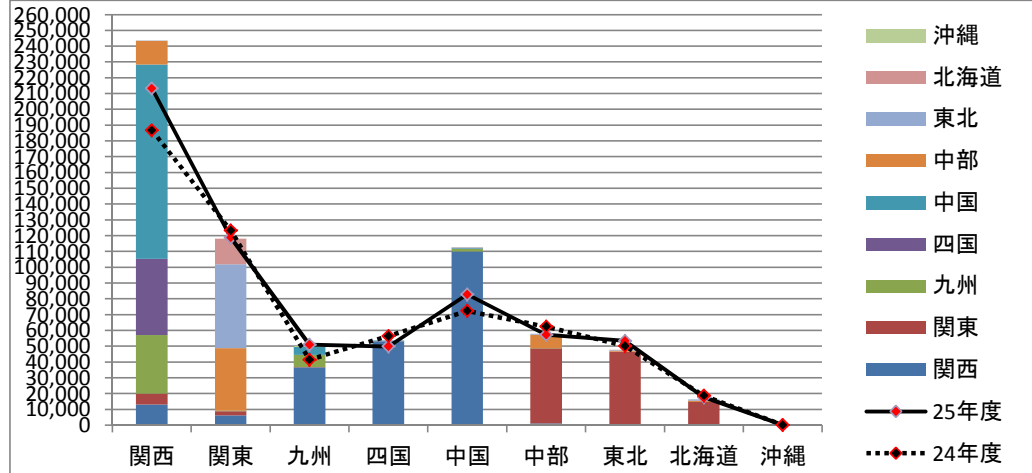


(実入り・空コンテナを含む年間の輸送量)

## 地域間流動比較(総計TEU)

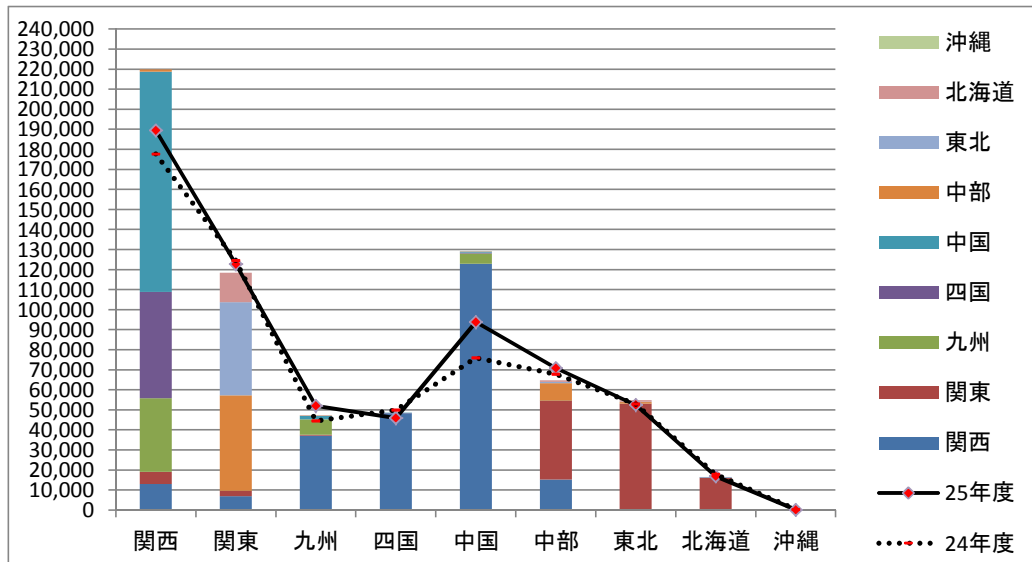
### 1. 積港地域別流動比較

積地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計(24年度)	合計対前年比 (TEU)	合計コンテナ 対前年比(%)
北海道	16,225	17,693	18,599	▲ 1,468	91.7%
東北	47,768	53,432	50,078	▲ 5,664	89.4%
関東	118,008	118,868	123,317	▲ 860	99.3%
中部	57,867	57,277	62,419	590	101.0%
関西	243,507	213,283	186,734	30,224	114.2%
四国	53,510	49,811	56,347	3,699	107.4%
中国	112,491	82,826	72,308	29,665	135.8%
九州	49,829	51,012	41,453	▲ 1,183	97.7%
沖縄	0	0	0	0	—
総計	699,205	644,202	611,255	55,003	108.5%



### 2. 揚港地域別流動比較

揚地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計(24年度)	合計対前年比 (TEU)	合計コンテナ 対前年比(%)
北海道	16,461	16,797	17,753	▲ 336	98.0%
東北	54,898	52,507	52,936	2,391	104.6%
関東	118,375	122,743	124,521	▲ 4,368	96.4%
中部	64,789	70,783	67,826	▲ 5,994	91.5%
関西	219,810	189,508	177,685	30,302	116.0%
四国	48,673	45,929	49,847	2,744	106.0%
中国	129,049	93,767	75,884	35,282	137.6%
九州	47,021	52,006	44,498	▲ 4,985	90.4%
沖縄	129	162	305	▲ 33	79.6%
総計	699,205	644,202	611,255	55,003	108.5%



## 地域間流動比較(実入、空TEU)

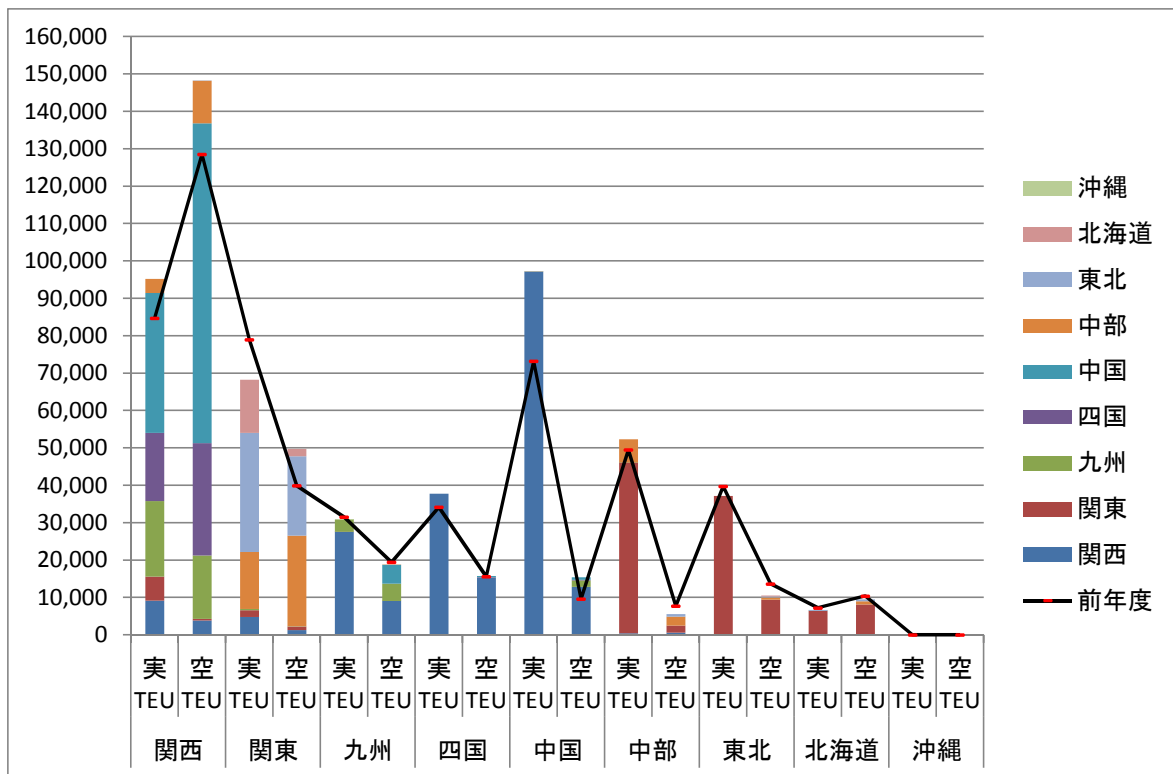
### 1. 積港地域別流動比較

実入コンテナ対比表

積地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	6,701	7,262	▲ 561	92.3%
東北	37,190	39,761	▲ 2,571	93.5%
関東	68,219	78,932	▲ 10,713	86.4%
中部	52,296	49,544	2,752	105.6%
関西	95,248	84,719	10,529	112.4%
四国	37,778	34,173	3,605	110.5%
中国	97,103	73,242	23,861	132.6%
九州	30,966	31,550	▲ 584	98.1%
沖縄	0	0	0	—
総計	425,501	399,183	26,318	106.6%

空コンテナ対比表

積地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	9,524	10,431	▲ 907	91.3%
東北	10,578	13,671	▲ 3,093	77.4%
関東	49,789	39,936	9,853	124.7%
中部	5,571	7,733	▲ 2,162	72.0%
関西	148,259	128,564	19,695	115.3%
四国	15,732	15,638	94	100.6%
中国	15,388	9,584	5,804	160.6%
九州	18,863	19,462	▲ 599	96.9%
沖縄	0	0	0	—
総計	273,704	245,019	28,685	111.7%



## 地域間流動比較(実入、空TEU)

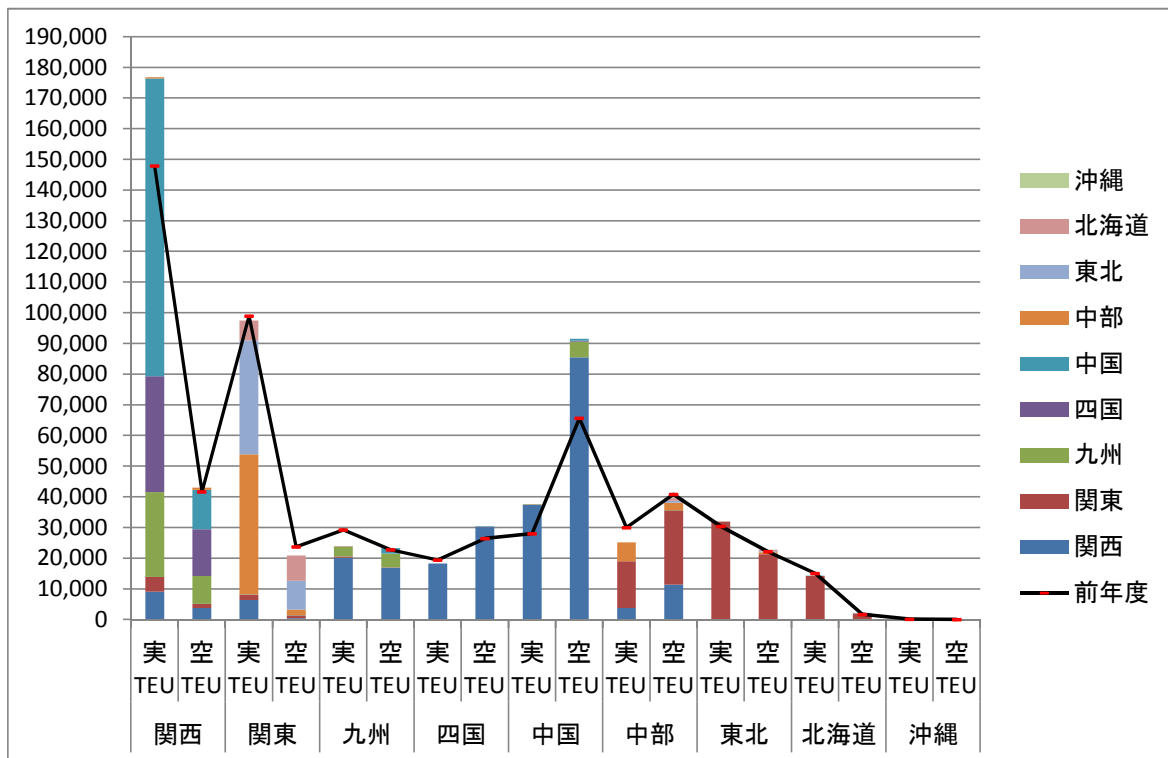
### 2. 揚港地域別流動比較

実入コンテナ対比表

揚地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	14,216	15,088	▲ 872	94.2%
東北	32,079	30,393	1,686	105.5%
関東	97,503	98,973	▲ 1,470	98.5%
中部	25,206	29,940	▲ 4,734	84.2%
関西	176,827	147,880	28,947	119.6%
四国	18,282	19,452	▲ 1,170	94.0%
中国	37,502	28,049	9,453	133.7%
九州	23,757	29,246	▲ 5,489	81.2%
沖縄	129	162	▲ 33	79.6%
総計	425,501	399,183	26,318	106.6%

空コンテナ対比表

揚地	合計(26年度)	合計(25年度)	合計対前年比(TEU)	合計コンテナ対前年比(%)
北海道	2,245	1,709	536	131.4%
東北	22,819	22,114	705	103.2%
関東	20,872	23,770	▲ 2,898	87.8%
中部	39,583	40,843	▲ 1,260	96.9%
関西	42,983	41,628	1,355	103.3%
四国	30,391	26,477	3,914	114.8%
中国	91,547	65,718	25,829	139.3%
九州	23,264	22,760	504	102.2%
沖縄	0	0	0	—
総計	273,704	245,019	28,685	111.7%

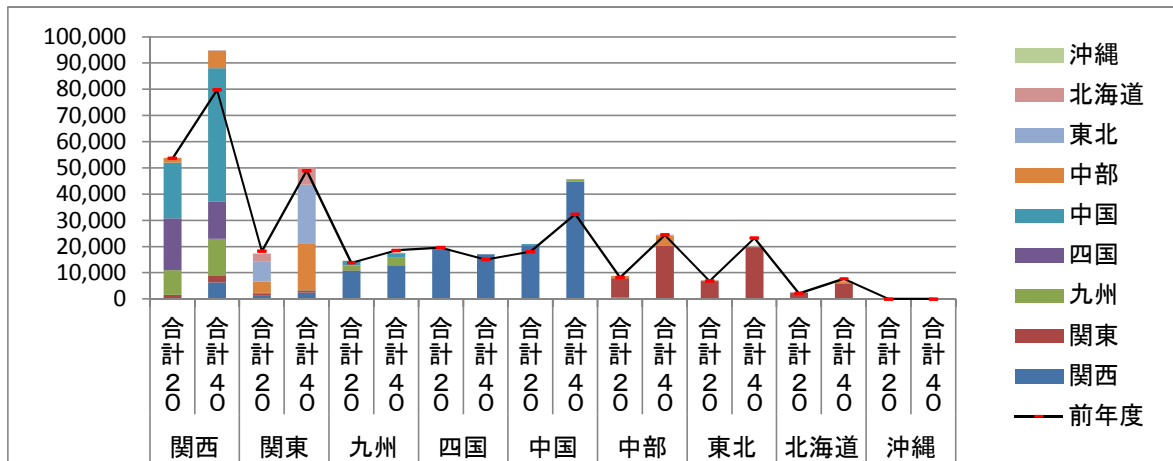




## 地域間流動比較(20'、40')

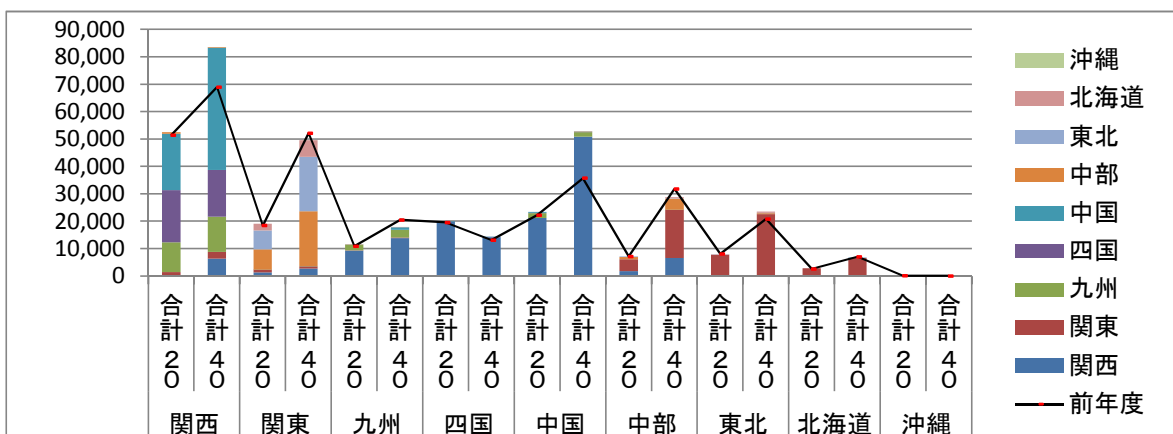
### 1. 積港地域別流動比較

積地	合計(26年度)		合計(25年度)		合計対前年比(本数)		合計コンテナ対前年比(%)	
	20'	40'	20'	40'	20'	40'	20'	40'
北海道	2,443	6,891	2,145	7,774	298	▲ 883	113.9%	88.6%
東北	7,132	20,318	6,938	23,247	194	▲ 2,929	102.8%	87.4%
関東	17,352	50,328	18,250	48,956	▲ 898	1,372	95.1%	102.8%
中部	8,795	24,536	8,225	24,526	570	10	106.9%	100.0%
関西	53,921	94,793	53,705	79,789	216	15,004	100.4%	118.8%
四国	19,166	17,172	19,599	15,106	▲ 433	2,066	97.8%	113.7%
中国	21,107	45,692	18,086	32,370	3,021	13,322	116.7%	141.2%
九州	14,727	17,551	13,832	18,590	895	▲ 1,039	106.5%	94.4%
沖縄	0	0	0	0	0	0	—	—
総計	144,643	277,281	140,780	250,358	3,863	26,923	102.7%	110.8%



### 2. 揚港地域別流動比較

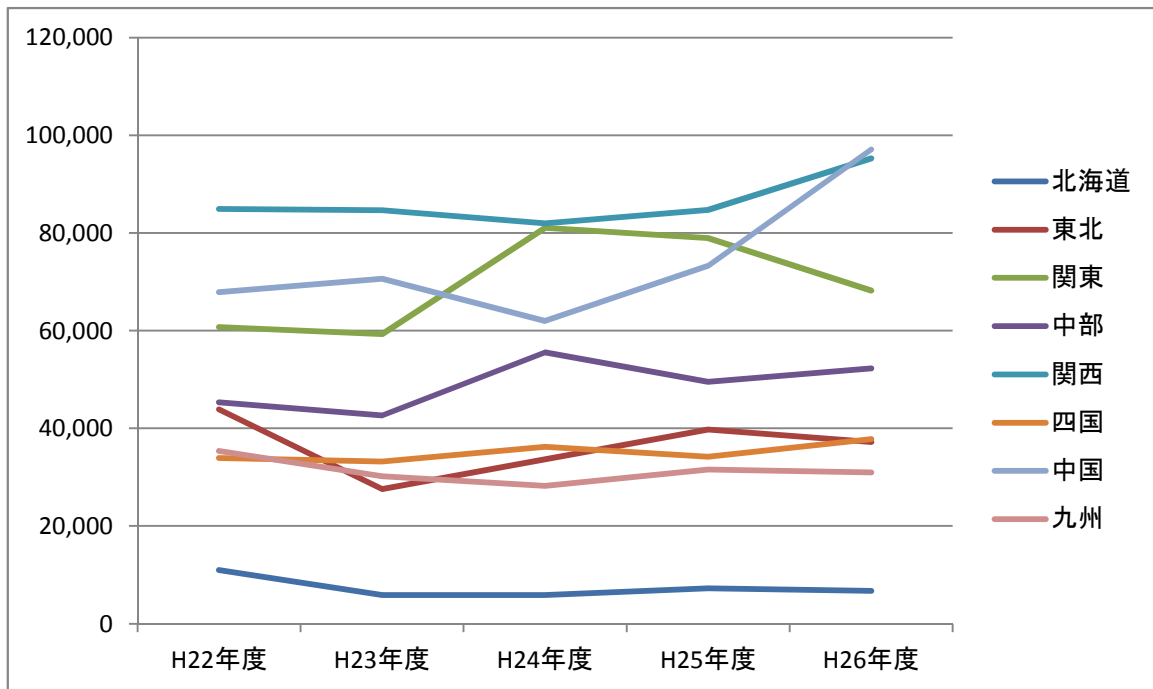
揚地	合計(26年度)		合計(25年度)		合計対前年比(本数)		合計コンテナ対前年比(%)	
	20'	40'	20'	40'	20'	40'	20'	40'
北海道	2,923	6,769	2,671	7,063	252	▲ 294	109.4%	95.8%
東北	7,876	23,511	8,133	20,834	▲ 257	2,677	96.8%	112.8%
関東	19,063	49,656	18,473	52,135	590	▲ 2,479	103.2%	95.2%
中部	7,175	28,807	7,157	31,813	18	▲ 3,006	100.3%	90.6%
関西	52,588	83,611	51,442	69,033	1,146	14,578	102.2%	121.1%
四国	20,019	14,327	19,593	13,168	426	1,159	102.2%	108.8%
中国	23,449	52,800	22,237	35,765	1,212	17,035	105.5%	147.6%
九州	11,455	17,783	10,964	20,521	491	▲ 2,738	104.5%	86.7%
沖縄	95	17	110	26	▲ 15	▲ 9	86.4%	65.4%
総計	144,643	277,281	140,780	250,358	3,863	26,923	102.7%	110.8%



## 積揚地別実入りコンテナ年度別推移表 (H22～26年度)

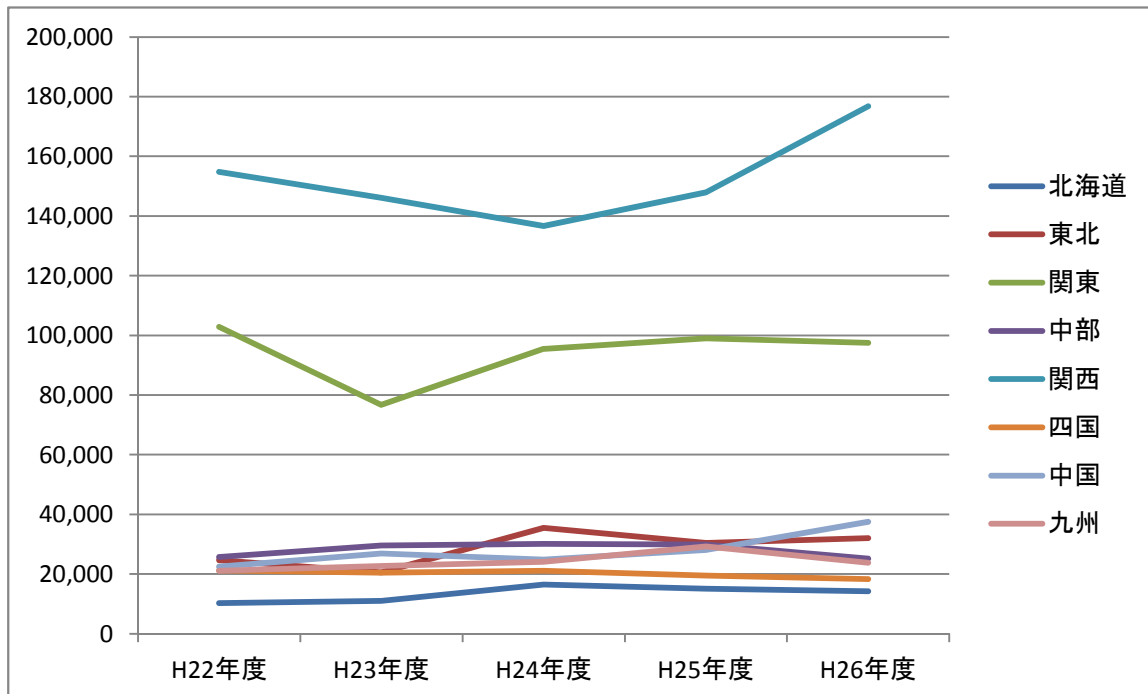
### 積地別

(単位: TEU)



### 揚地別

(単位: TEU)



## H25・26年度比積揚コンテナ差異数量

### 実入コンテナ

(単位:TEU)

	平成25年度			平成26年度			25・26年度差異	
	積み(A)	揚げ(B)	差異(A-B)	積み(C)	揚げ(D)	差異(C-D)	積み(A-C)	揚げ(B-D)
北海道	7,262	15,088	<b>△ 7,826</b>	6,701	14,216	<b>△ 7,515</b>	<b>△ 561</b>	<b>△ 872</b>
東北	39,761	30,393	<b>9,368</b>	37,190	32,079	<b>5,111</b>	<b>△ 2,571</b>	<b>1,686</b>
関東	78,932	98,973	<b>△ 20,041</b>	68,219	97,503	<b>△ 29,284</b>	<b>△ 10,713</b>	<b>△ 1,470</b>
中部	49,544	29,940	<b>19,604</b>	52,296	25,206	<b>27,090</b>	<b>2,752</b>	<b>△ 4,734</b>
関西	84,719	147,880	<b>△ 63,161</b>	95,248	176,827	<b>△ 81,579</b>	<b>10,529</b>	<b>28,947</b>
四国	34,173	19,452	<b>14,721</b>	37,778	18,282	<b>19,496</b>	<b>3,605</b>	<b>△ 1,170</b>
中国	73,242	28,049	<b>45,193</b>	97,103	37,502	<b>59,601</b>	<b>23,861</b>	<b>9,453</b>
九州	31,550	29,246	<b>2,304</b>	30,966	23,757	<b>7,209</b>	<b>△ 584</b>	<b>△ 5,489</b>
沖縄	0	162	<b>△ 162</b>	0	129	<b>△ 129</b>	<b>0</b>	<b>△ 33</b>
	<b>399,183</b>	<b>399,183</b>	<b>0</b>	<b>425,501</b>	<b>425,501</b>	<b>0</b>	<b>26,318</b>	<b>26,318</b>

### 空コンテナ

(単位:TEU)

	平成25年度(A)			平成26年度(B)			25・26年度対比差異	
	積み(A)	揚げ(B)	差異(A-B)	積み(C)	揚げ(D)	差異(C-D)	積み(A-C)	揚げ(B-D)
北海道	10,431	1,709	<b>8,722</b>	9,524	2,245	<b>7,279</b>	<b>△ 907</b>	<b>536</b>
東北	13,671	22,114	<b>△ 8,443</b>	10,578	22,819	<b>△ 12,241</b>	<b>△ 3,093</b>	<b>705</b>
関東	39,936	23,770	<b>16,166</b>	49,789	20,872	<b>28,917</b>	<b>9,853</b>	<b>△ 2,898</b>
中部	7,733	40,843	<b>△ 33,110</b>	5,571	39,583	<b>△ 34,012</b>	<b>△ 2,162</b>	<b>△ 1,260</b>
関西	128,564	41,628	<b>86,936</b>	148,259	42,983	<b>105,276</b>	<b>19,695</b>	<b>1,355</b>
四国	15,638	26,477	<b>△ 10,839</b>	15,732	30,391	<b>△ 14,659</b>	<b>94</b>	<b>3,914</b>
中国	9,584	65,718	<b>△ 56,134</b>	15,388	91,547	<b>△ 76,159</b>	<b>5,804</b>	<b>25,829</b>
九州	19,462	22,760	<b>△ 3,298</b>	18,863	23,264	<b>△ 4,401</b>	<b>△ 599</b>	<b>504</b>
沖縄	0	0	<b>0</b>	0	0	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
	<b>245,019</b>	<b>245,019</b>	<b>0</b>	<b>273,704</b>	<b>273,704</b>	<b>0</b>	<b>28,685</b>	<b>28,685</b>